

山行報告書

報告書作成

2014年1月13日

山名 [山域]	鈴鹿縦走(釈迦ヶ岳～国見岳)	目的と方法	冬季トレーニング
登山期間	2014年1月11日(土)～12日(日)	山行形態	1泊2日(テント泊縦走)
参加人数	4人		

【行動記録】 ==:車 --:歩き ++:公共交通機関 TS:テントサイトor宿泊施設 (到着時刻、出発時刻)

1/11(土)
 近鉄名古屋駅(7:15,7:30)++0:35++四日市駅(8:05,8:30)++0:20++菰野駅(8:50,9:05)++0:20++釈迦ヶ岳 松尾尾根登山口(9:25,9:45)--3:10--尾高高原分岐(12:55)--0:45--大ガレ(13:40)--0:20--釈迦ヶ岳(1092m)(14:00,14:50)--0:45--猫岳(1058m)(15:35)--1:15--白滝谷分岐(16:50)--0:10--羽鳥峰 手前の林(17:00)TS1

1/12(日)
 羽鳥峰 手前の林(4:30,6:20)TS1--1:30--金山(7:50)--0:20--中峠(8:10)--0:45--水晶岳(8:55,9:00)--0:30--根ノ平峠(803m)(9:30)--2:45--国見岳(1170m)(12:15)--0:55--国見峠(13:10)--1:00--藤内小屋(14:10,14:25)--1:05--裏道1合目(15:30)--0:05--湯の山温泉バス停(15:35,16:15)++1:00++名古屋駅 名鉄バスセンター(17:15)解散



【日誌】

集合は名古屋駅、近鉄に乗り、四日市駅で乗り換えて菰野駅まで向う。菰野駅からはタクシーで釈迦ヶ岳松尾尾根登山口まで20分程度、運転手さん曰く「こんなに雪の少ない年末年始は初めて」とのこと。登山口は看板こそあるものの分りにくく危うく通り過ぎてしまいそう。

歩き始めるといきなり急登、そういえば計画書の目的欄に冬季トレーニングと書いてあったと思い出し苦笑い。ときおり岩を登るようなところもあった。雪は登山口付近にはほとんどなかったが標高が上がるにしたって雪が深くなってワカンをつけるか迷う状態だった。大ガレは凍結していたためアイゼン装着にて釈迦ヶ岳最高点まで進んだ。樹氷と雪庇が綺麗。この先は雪の感触を味わいながら尾根伝いにルンルンで歩ける道。猫岳山頂からは街が見えた。予定より時間が押していたため急ぎ足でテントを張る予定の林まで歩いた。リーダーとっておきの場所(?)風もなくぐっすり休むことができた。

翌日皆で寝過ごしたが、手慣れたメンバーは支度も早く予定より早く出発した。日の出を見ながら見晴らしの良い尾根沿いの道を歩く。天気は快晴。昨日歩いた稜線が見渡せ「よく歩いたものだ」と感心する。金山、水晶岳とアップダウンを繰り返し根ノ平峠までやってくると今日の行程のやっとなら半分。青岳の辺りまで来ると再び樹氷が見られるようになった。国見岳手前は樹氷の林。まるで満開の桜並木の下を散歩しているよう。テンションが上がったまま進むと国見岳山頂。岩の上から360°の大展望が広がっていた。あとは裏道で下るのみ。と思っていたら意外にも長い道のり。裏道1合目の看板が登山終了のサイン。

そのまま湯の山温泉のバス停まで歩き、高速バスで名古屋駅まで帰った。

【参考データ】・近鉄名古屋～四日市駅～菰野駅 ¥760
 ・釈迦ヶ岳 松尾尾根登山口にはトイレ、登山ポスト等はない。
 ・三重交通 高速バス 湯の山温泉～名古屋駅 ¥1280

【感想】

鈴鹿と言えば樹氷！ということで今回は天候が良く、青空と樹氷を満足いくまで堪能できラッキーだった。そもそも雪山テント泊縦走というものが初めてだったので最後まで歩くことができるか少し不安だったが、リーダー及びメンバーの皆様のおかげで存分に楽しめた。トレースのない雪道を進むにはその山をよく知っていること、コンパスと地図を活用することが重要だと感じた。

電車で山に行くという都会的な登山もまた初めての経験だった。家から登山靴を履いて出掛けると路面が凍結しており駅までの道で2度も転んだ。やれやれと思っていたが終わってみるとバスの中は熟睡できるし、交通費が安い。そしてビールが飲めるという特典まで付いてくる。思いのほか快適。これはアリです。

参加者名